

2-17

国際収支

日本は多くの国と輸出や輸入などを通じて貿易をしています。輸出や輸入は基本的にモノのやり取りを指しますが、それ以外にもさまざまなお金のやり取りがあります。たとえば、旅行での受け取りや支払い、特許料の受け取りや支払いです。こうしたやり取りをすべてまとめたものは国際収支と呼ばれます。

▶▶ GDP統計にはサービス取引も入る

GDP統計には、「財貨・サービスの輸出」「財貨・サービスの輸入」という項目があります。輸出入というと、モノの取引だけを思い浮かべがちですが、GDP統計の輸出入にはサービス取引も入っています。海外のホテルに泊まったら、その代金はサービス輸入に含まれ、海外企業が日本企業に対して特許料を払うと、その代金はサービス輸出になります。お金が入ってくる場合がサービス輸出、お金が出て行く場合がサービス輸入と考えます。

▶▶ 貿易統計と国際収支統計

「貿易統計」は、財務省が毎月発表している輸出入に関する統計です。統計の中にはサンプル調査を行うものも多いですが、この統計は全数調査なので信頼性の高いデータといえます。毎月、輸出入に関して地域別、主要製品別に統計が発表されています。経済統計は実質で見るのが基本ですが、貿易統計でそれに当たるのが輸出入の数量指数です。金額ベースでは価格の変動で大きくブレることがあるので、実勢をつかむには数量指数を用います。輸出入の価格指数も発表されています。

「国際収支統計」も、財務省が毎月発表しています。**経常収支**が非常に重要です。「経常」とは通常の経済活動という意味で、「国際収支統計」では貿易やサービスなど基本的経済活動の収支を指します。モノのやり取りの収支は**貿易収支**で、輸出から輸入を引いたものです。**サービス収支**はサービスのやり取りの収支です。たとえば、日本人が海外旅行に行ってホテルに泊まり、代金を支払ったとします。これは、日本から海外へのサービスの支払いに計上されることになります。**所得収支**は、労働や資本によって稼いだお金を指します。

日本の経常収支は黒字の場合が多いですが、経常収支が黒字だということは、海外から受け取るお金の額の方が、海外へ支払うお金の額よりも多いことを意味します。海外のお金の大半はドルですから、国内にドルが余っている状態です。

このお金を国内に置いておいても収益を上げないので、米国の国債を買ったり株を買ったりするのに使います。こうした資本の移動を表すのが**資本収支**です。日本から海外へお金が流れているので、資本収支は赤字の場合が多いです。入ってくるお金が多い程、出ていくお金も多いので、経常収支の黒字と資本収支の赤字は、表裏一体の関係にあります。

主な国際収支に関する統計

統計名	発表者	期種	解説
国民所得統計	内閣府	四半期	GDPの内訳の財貨・サービスの輸出入。貿易取引だけでなく、サービス取引も含まれている。
貿易統計	財務省	月次	輸出入に関して商品別、国別にかなり詳しいデータが入手できる。
国際収支統計	財務省	月次	貿易取引を含む、あらゆる国際取引を記録したデータ。経常収支が重要。

● 国際収支の内容

国際収支の項目	説明
経常収支	基本的な経済活動で動いた資金の受け払いの結果。
貿易・サービス収支	
貿易収支 (= 輸出 - 輸入)	モノの貿易によって日本が稼いだ金額。
輸出	輸出海外にモノを売った金額。
輸入	輸入海外からモノを買った金額。
サービス収支	旅行や運輸、特許使用料などサービスの活動によって得られた金額。
所得収支	海外での労働や投資によって得られた金額 - 外国人の日本での労働や投資によって得られた金額。
経常移転収支	ODA (政府開発援助) などのように、対価を伴わずに一方的に資金が流れたものの合計。
資本収支	基本的な活動で稼いだお金を投資などとしてどの程度使ったか。
外貨準備増減	最終的にドルなどの外貨がどの程度日本国内で増えた (減った) か。